

令和2年度文部科学省委託
「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」
（「ICT活用教育アドバイザー」の活用事業）

新たな時代に向けた 学びの環境

— 「1人1台」実現のためのガイドブック —

令和3年3月

 文部科学省

目次

はじめに

第 1 章 ICT 環境整備の進め方と教育委員会の役割 01

1-1 導入前（計画策定～調達（入札まで） 02

1-2 導入・設定 04

1-3 活用開始のための準備 06

1-4 導入研修 08

1-5 学校支援 10

資料 Q & A 12

第 2 章 ビジョン・計画策定 13

2-1 ビジョン策定の基礎資料 14

2-2 ビジョンと計画の策定 15

資料 Q & A 18

第 3 章 調達 19

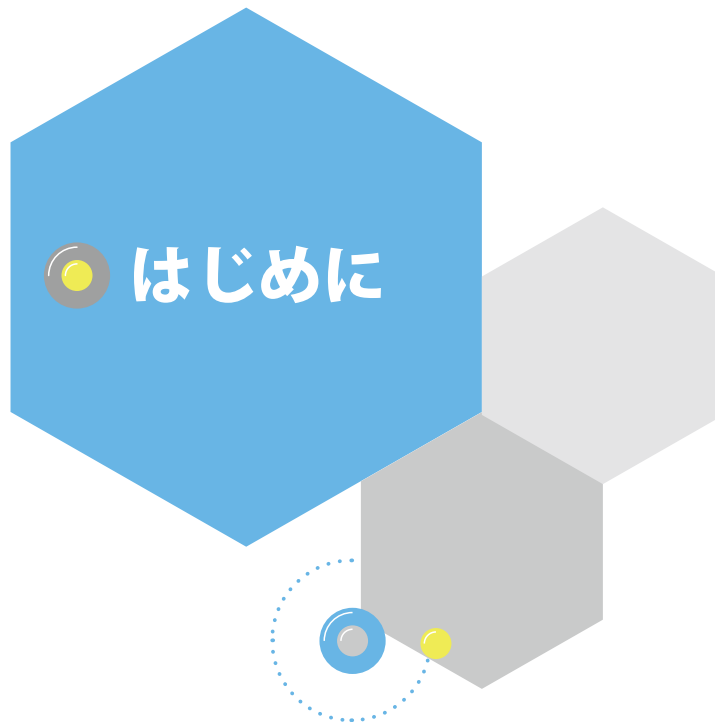
3-1 予算の用意（GIGA 以外）、今後の課題 20

3-2 情報収集 22

3-3 仕様策定 24

資料 Q & A 26

第 4 章	初期の設定・運用	27
4-1	一人一ID	28
4-2	各種設定（活用しやすい環境）	30
4-3	セキュリティ（安全な環境）	32
資料	Q & A	34
第 5 章	研修	35
5-1	導入研修	36
5-2	活用研修	38
資料	Q & A	40
第 6 章	遠隔教育・オンライン教育	41
6-1	遠隔教育のための準備	42
6-2	遠隔教育の種類	44
6-3	学校外での活用	46
資料	Q & A	48
資料	チェックリスト一覧	49
	執筆者・編集委員一覧	53
	リンク集 / 奥付	54



1人1台環境の学びの充実に向けて

2020年度は、GIGAスクール構想が立ち上がり、全国で校内LANの整備、端末の導入と取組が動き出しました。その中で新型コロナウイルスによる一斉休校があり、新しい生活環境での学びをつくるため学校に登校しなくても学べるオンライン学習や登校していても密にならずに協働での学びができるICT環境の必要性の認識が高まり、情報端末の導入計画が前倒しされました。

多くの教育委員会にとっては、初めての経験が一気に押し寄せた前代未聞の一年間だったことと思います。3クラスに1クラス分の整備計画を策定していた自治体はその修正が必要になり、常時1人1台の環境での学びをどうつくりあげるかという課題に取り組みました。さらに、情報端末を持ち帰り、家庭など学校外での学びにも活用することが求められ、家庭での環境も課題となり、従来の公的備品や公費の扱いとは異なる対応が必要でした。私たちICT活用教育アドバイザーも、多くの自治体からこうした相談を受け、これからの時代を生きる子供たちを育てる環境づくりとその運用・活用のために、各教育委員会の課題解決のお手伝いをして参りました。

教育委員会、事業者の皆様力を合わせた取組で、1人1台端末は96.2%の自治体等で整備が完了し、小学校等の96.2%、中学校等の96.5%で供用開始というところまで進みました。ICT人材の不足、物の不足が懸念される中で、文部科学省はじめ、各関係団体のお力添えもあってのことと思います。

環境がここまで整いました。さらにインターネットに接続する回線の見直しや教職員の研修等の課題解決に向け、1人1台環境での学びがさらに充実するよう、皆様と共にこれからも歩み続けていきます。

ガイドブック編集委員長 西田 光昭